

学生主体融合領域研究支援経費 要項

概要

- 本プログラムの主要な課題の一つである、融合研究を行う能力(領域を超えた問いを議論の元に創出し解決していく能力)の育成のため、研究経費を支援する。この経費の支援を受け、融合研究を実施することは、必修科目であるヒューマンウェア融合研究プロジェクトや、選択科目ヒューマンウェアPI融合研究プロジェクトの単位付与、および R-QE 合格や修了要件(融合研究の成果物1編)につながる重要な教育研究活動である。
- 1件につき年間上限 100 万円で年間最大 10 件(※最大に満たない場合も選考の対象となる)
- 「独創的な教育研究活動を行うための経費に関する実施要項」の枠として扱う。
 - 例えば、用途としては旅費、謝金、消耗品費、論文掲載費などに使用する。
- 詳細は年度ごとに変わる可能性がある。

申請資格

- 申請代表者は本学位プログラム履修生であり、研究代表者となること。
 - 申請者は過去に他の研究費等の研究代表者になったことのない履修生であること。
 - 履修生が2つ以上のテーマの申請者(グループ構成員含む)になるなど、同一の履修生による重複申請は認めない。
- 本学及び学外機関から類似の経費の助成を受けていないこと。
- 研究グループに2つ以上の異なる研究科に所属する履修生を原則4名以上含むこと。
 - 「独創的な教育研究活動を行うための経費」の「グループ型」に該当。
- 研究参加に関して、参加履修生全員および全員の指導教員の了承を得ること。
- 研究責任者(兼予算責任者)となる教員を、教員本人了承のもと指定すること。
 - 学生主体で動くが、対外的な研究責任や予算責任、研究進行や論文作成の指導などは、研究責任者が責任をもって進める。
 - 申請書での「指導教員等」に該当し責任を持つとともに研究申請の所見などを記入。
 - 基本的には研究代表者の指導教員。他の教員や特任教員への委任も可。
 - 指導教員、その他教員、特任教員ともに、申請内容により拒否する権利がある。
- 研究課題は過去に採択されたことのない課題であること

選考方法と基準

- プログラム担当者で組織された選考委員会において、申請書の内容等に基づき選考を行う。
- 選考基準は以下の項目
 - 研究課題の学術的重要性・妥当性
 - 研究計画・方法の妥当性
 - 研究課題の独創性及び革新性
 - 研究課題の波及効果及び普遍性
 - 研究遂行能力、研究環境、研究予算の適切性
 - プログラムの趣旨(融合研究によるイノベーション)との関連性
 - 在籍研究室での研究との関連性および相違点等

申請・採択・報告プロセス(2014年度のみ枠組みができ次第)

- 1. 「独創的な教育研究活動を行うための経費に関する実施要項」を熟読すること。
- 2. 次年度に実施するプロジェクトを前年度の1月末日までに申請。
 - 申請は「独創的教育研究活動経費(様式1-1、様式1-2、様式3)」
 - 研究代表者が office-n@humanware.osaka-u.ac.jp に提出(n期生)。
- 3. 審査。2月末まで。
- 4. 未来戦略機構長の承認。3月。
- 5. 採択通知。4月。

- 6. 最終報告書の提出。研究実施次年度の4月末まで。
 - 報告書は「独創的教育研究活動経費(様式5)」を使用する。
 - 研究代表者が office-n@humanware.osaka-u.ac.jp に提出(n期生)。
 - 内容の一部をニュースレター等で一般公開してもらう可能性あり(公開の際には事前に内容について研究代表者および研究責任者に確認)。

運営方法

- 研究代表者が中心となり、研究責任者と相談のもと運営する。
 - 論文発表時の対外的、対内的(Authorship等)な責任は研究責任者が持つ。
- 予算執行は、研究責任者が行う、または研究責任者の確認のもと行う。
- 予算の執行は原則1月末日までとする。それ以降に学会参加などで経費の使用予定がある場合は、連絡・確認の上、1月末日までに使用する金額を確定させなければならない。(窓口は office-n@humanware.osaka-u.ac.jp)

参考資料

履修の手引き(2014年度)での記載

- ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究A/B(Humanware Interdisciplinary Project Studies A/B)
 - 選択必修(A又はBの授業科目のいずれかの修得が必須)
 - ▼開講学期:3年次通年
 - ▼曜日時限:集中講義
 - ▼講義の概要(予定):本学位プログラム履修の3、4年生で、異なる専門領域の学生からなる研究開発チーム(4~8名程度)を構成し、ヒューマンウェア融合領域の小規模の研究開発プロジェクトを実施する。プロジェクトの企画・立案から運営・実施までを研究開発チームが主体となって取り組む。異なる研究領域の学生と親密にコミュニケーションを図り、異分野との交叉を主体的に考え、イノベーションを創起する力を育むために、自主性を重んじた合宿スタイルの活動「齋同熟議」を取り入れる。小規模の研究開発プロジェクトに主体的に取り組むことにより、強いリーダーシップを存分に発揮し研究開発プロジェクトを牽引できるPIとして必要な能力を涵養する。
 - 融合研究プロジェクト判定委員会を設置し、プロジェクト提案の審査(先進性、有用性などを考慮して、プロジェクト実施の可否を決定)、中間審査、最終審査を実施し、可否を判定する。
- ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究A/B(Humanware PI Interdisciplinary Project Studies A/B)
 - ▼選択
 - ▼開講学期:4年次通年
 - ▼曜日時限:集中講義
 - ▼講義の概要(予定):本学位プログラム履修の3、4年生で、異なる専門領域の学生からなる研究開発チーム(4~8名程度)を構成し、ヒューマンウェア融合領域の小規模の研究開発プロジェクトを実施する。プロジェクトマネージャーとして、責任を持って主体的に取り組むことにより、研究開発プロジェクトを牽引できるPIとして必要な能力に磨きをかける。
 - 融合研究プロジェクト判定委員会を設置し、プロジェクト提案の審査(先進性、有用性などを考慮して、プロジェクト実施の可否を決定)、中間審査、最終審査を実施し、可否を判定する。
- Research Qualifying Examination(R-QE)
 - 3年次終了時に実施します。3年次のヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究で実施した、異なる専門の学生との融合領域研究の成果、ならびに、4年次以降に取り組む融合領域研究および博士論文の研究計画について、書面と面接で審査します。審査委員会は学生ごとに設置し、当該学生のアドバイザー委員会のメンバーも審査委員に加え、研究の新規性・有用性だけでなく、産業技術化の視点も審査基準として、審査します。このResearch Qualifying Examinationに合格すると、4年次以降の本プログラム履修の継続が許可されます。
- 最終試験
 - (1) 英語で書かれた専門分野の学位論文を提出すること。
 - (2) 英語で書かれ国際雑誌に掲載された主論文(筆頭著者として発表した論文。掲載決定でも可)少なくとも1編を提出すること。この論文は、学位論文の主要な構成部分をなしている必要がある。
 - (3) 融合研究の成果物1編を提出すること。融合研究の成果物とは、異なる研究分野の(研究科を跨がる)学生、教員を含む共著の国際雑誌、国際会議の論文発表、著書、作品などをいう。ただし、この成果物は上記(2)の主論文(筆頭著者として発表した論文)と同一である必要はない。
 - (4) 審査委員会(主査(所属する研究室の長)、副査2名以上(研究室とは異なる研究科の教員、大学外の研究者各1名以上を含むこと))による予備審査に合格すること。予備審査においては、専門家として自らの研究成果を理解し説明できることに加え、情報科学、生命科学、認知・脳科学、ロボティクスの融合領域で行われた融合研究の成果について、他の研究分野への波及効果を他の研究者にも容易に理解させることができるかを重要な基準として評価する。
 - (5) 主査、副査2名以上が出席の上で、英語による公開研究発表会を行い、審査に合格すること。公開研究発表会では、プレゼンテーション能力もあわせて審査する。
 - (6) デザイン力、コミュニケーション力、マネジメント力に関して、リーディング大学院修了者が備えるべき要件とその熟達度(GPIスキル)をGPI熟達度審査委員会で総合的に審査し、グローバルに活躍するリーダーに必要な資質を有していると認定されること。GPI熟達度審査委員会は、最前線で活躍している研究者と産業界の有識者で構成する。
 - (7) TOEICのスコアが730点以上であること。